

九州大学海外派遣留学生 最終報告書		※ 帰国後 15 日以内に提出してください。	
		※ 提出された情報は、海外留学HPに掲載します。(色のついた部分は掲載しません)	
留学先大学名	シンガポール国立大学 (国名: シンガポール)		
留学先学部名(またはプログラム名)	CSP		
留学期間	2015 年 8 月 ~ 2016 年 5 月		
学部/学府・年次	法学部/学府	3 年次~ 4 年次	
留学により卒業または修了が遅れる見込みの有無とその期間	④・無 (期間: 1 年間)		
遅れる見込みの方はその理由を書いてください (NO.に○印をつける)	1. 4年次に留学したため ②. 単位が不足するため 3. 新卒で就職したため 4. その他(具体的に記入)		
卒業を遅らせないためにどのような配慮や工夫をしましたか?			
進路の予定	①就職 ( 時期: 4月から / ( 2018)年 ( 4)月から) 2. 大学院進学( 大学 学府/研究科 ) 3. その他(具体的に: )		
前項で1と答えた方は、就活時期と方法を教えてください(予定を含む)	2017 年春より通常の就職活動をする予定。		
進学先や就職先の選定に、留学経験が影響しましたか?			
留学経験は就職活動の際に役立ちましたか?			
1. 留学先大学について			
授業(カリキュラム等)の概要について	FASS(人文社会学部)は社会科学系の授業全般が履修できるようになっている。私の場合は政治学、東南アジア関連、ニューメディア、中国語を受講した。授業の進行は週1回又は2回95分の講義に合わせてチュートリアル(45分または95分)と呼ばれる少人数ゼミが行われ、個人/グループプロジェクトをする必要がある。		

<p>留学先大学のサポート体制について (語学面／勉学面／精神面／住居・生活面など)</p>	<p>特に学期開始前後には寮・キャンパスともに留学生用に施設の概要を紹介するツアーが開催され、現地の学生が分からない点に親切に答えてくれるので新生活について心配する必要はない。語学面で強く感じたのは多少崩れた英語を話しても理解しようと真剣に耳を傾けてくれる人が非常に多かった点である。シンガポール自体が多民族国家で政府の働きかけで公用語が英語になった経緯があり、それが影響しているのだと思う。住居は留学生であれば確実にキャンパス内の寮に住める。新しい建物・古い建物が混在しているが、共同トイレ・シャワールームには毎日清掃が入るため衛生状態は比較的良好である。また、寮の中には朝食・夕食つきのものがあり、バランスよく栄養を摂取できるようになっている。</p>
<p>留学先大学に対する感想</p>	<p>NUS に集まる留学生は出身国、専攻ともに多様でなおかつ知的好奇心に富んだ人が多いという印象を強く受けた。ただ、自分もそうであったが留学中の成績が直接所属大学の成績に変換されるわけではない学生が多いので留学生は比較的精神的に余裕を持った生活をしているように感じる。一方で現地人は大学の成績が就職に大きく影響するため学期の当初から図書館や学内の学習ルームで熱心に勉強に励んでいる。特にテスト期間中は大学構内の施設で席を探すのに一苦労する。以上の光景は日本の大学ではなかなか見られない光景である。</p> <p>ところで、NUS は留学中の 2015 年に世界大学ランキングで 12 位にランクインし急速に世界での知名度が上がっているが、学部によって力の入れ具合に差が生じている。例えば日本と同じように理系学部は医学部を筆頭に全般的に豊富な研究資金を蓄えているように見受けられた。その他の学部ではビジネススクール、法学部、公共政策学部は将来の企業経営陣や法曹、政治エリートを生み出す機関として世界から著名な教授陣を呼び込んで高い教育の質を誇っている。他方で、私の留学先であった人文社会学部には十分な資金や優秀な教員の配置が行き届いていないのではないかとされる。というのも、人文社会学部には政治学、社会学、心理学、文学、経済学、歴史学、東南アジア研究等独自に学部にしても申し分ないような部門が集約されているからである。日本の大学でも肌で感じるが、たとえ世界有数の教育機関であっても学内には少なからず格差のようなものがあり、全ての学部学科が平等に扱われている訳ではない点を認識した。</p>

<p>同じ大学への留学を希望する人々へのアドバイス</p>	<p>シンガポール国内では英語が公用語であるためヨーロッパ諸国へ留学するよりも言語面での障壁はかえって低いかもしれない。ただ、中国語を話せるとキャンパス外のフードコートの店員との意思疎通がより円滑になるように感じた。NUSにこれから留学しようと考えている人は英語に加え中国語を学ぶと便利だと思う。</p> <p>九大から NUS への留学は FASS、理系学部、法学部、ビジネススクールへの派遣、research student としての派遣など数種類から選べる。当然だが自分の専攻に関わりの深い学部・学科へ申請することをお薦めする。それぞれの学部には九大では開講されていない授業が必ずあると思うのでそれらを受講すると留學生活の充実度が増すはずである。なお、申請先によって必要な英語試験のスコアが変化するので事前に計画的に学習しておくことと後々慌てずに済む。</p>
-------------------------------	---

## 2. 事前手続き(ビザ申請など)

<p>ビザの種類</p>	<p>学生ビザ</p>
<p>ビザ申請先</p>	<p>ICA と呼ばれるビザを扱う国家機関にオンライン申請。なお、留學開始時期に大学に臨時オフィスが開設されるため現地での最終手続は容易。</p>
<p>必要書類、手続き方法</p>	<p>証明写真、パスポートの写し、健康診断の証明書(HIV と結核: <u>英文の証明でない</u>と受け付けられない)。渡航前にオンラインで申請しクレジットカードで必要経費を支払う。渡航後に大学に設置される臨時オフィスに上記の 3 点セットに加えクレジットカード支払いの確認ページを添えて提出する。証明写真が不鮮明な場合はその場でお金を払い撮り直しすることになる (約 700 円)。</p>
<p>手続きに要した時間</p>	<p>大学のオフィスには学生が殺到するため 2.3 時間は掛かる。</p>
<p>その他必要な事前手続き</p>	<p>渡航前に前期分の寮費の前金約 2 万円、その他諸経費として約 2 万円をクレジットカードにて支払う必要がある。</p>

3. 日常生活	
日常生活の概要、感想	前期、後期共に朝 8 時頃に起床していた。前期は朝食を抜くことも少なからずあったが後期は食事付きの寮に移り、毎朝朝食をとっていた。平日の授業がある日は基本的に教室と図書館を日中行ったり来たりしていた。全休日は寮建物内の共有スペースや寮敷地内の学習ルームに行き宿題や予習に取り組んでいた。留学当初は授業のペースと予習の分量に戸惑っていたものの、時間の経過とともに慣れてきて睡眠時間も十分に確保できるようになった。週末は寮の友人たちと外出することが多く、平日中にたまった疲れを癒す絶好の機会であった。
生活費(月額)及びおおよその内訳(円換算で)	生活費計 80000 円/月 (生活費内訳) 住居費: 50000 円、 光熱水料: 円、 通学費: 円、 食費: 23000 円、 電話代: 円、 インターネット代: 円、 書籍代: 5000 円 その他:(具体的に)公共交通機関用 IC カードチャージ費 2000 円 学費・寮費以外に大学へ納入するもの(あれば) 円 (徴収された費用の名目を具体的に: )
日本から持参した方がよいもの(PCや変圧器等の要不要も)	変換プラグ(変圧プラグの要不要は電化製品の表示を見て判断) 増設用ハードディスクもしくはフラッシュメモリ(論文を何本もダウンロードしているとメモリの容量が減ってしまう) 辞書
これから留学する人への、日常生活(治安対策を含め)に関するアドバイス	治安は日本と同じかそれ以上に良いという印象なので過度に警戒する必要はない。平均気温は年間を通して 30 度前後である一方、室内の冷房は一般的に強力である。室内外の気温の急激な変化で風邪を引く人も多い。日本からはパーカー等 Tシャツの上に羽織れる衣服を持っていくと良い。
お金の管理や受け取り(銀行口座開設や海外送金、またはクレジットカード持参など)について、貴方の留学先国で最も適当な方法を教えてください。	渡航前に天神にて新生銀行の口座を開設し、奨学金の受け取り先にした。VISA Plus マーク付き ATM であれば世界各国で現地通貨での現金引き出しが可能である。なお、寮費その他諸経費はクレジットカード決済なので少なくとも 1 枚は持つ必要がある。

<b>4. 住居、生活環境</b>		
住居の種類(○印をつける)	・ <input checked="" type="radio"/> ・ホームステイ ・民間アパート ・その他( )	
住所／電話番号	NUS キャンパス内	
費用(月額)	前期の寮費 45000 円/月 後期の寮費 50000 円/月	
どのようにして見つけたか	NUS 留学決定に際し入寮案内リンクがメールで届く。申請締め切り日が記載されているので注意が必要。	
次期留学生に推薦できるかどうか、およびその理由。	キャンパス内部に住む方が圧倒的に楽であり、寮の質もほぼ申し分ないので入寮を強く薦める。	
留学生を送る上で次期留学生に伝えたい地域情報、生活情報	ホーカーセンターの名で有名なフードコートが各地にあり、そこでは約 300 円でご飯が食べられる。メニューの数も豊富なのでローカルフードを食べ尽くしたい人にはもってこいの場所である。	
<b>5. 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト</b>		
サイト名	URL	コメント
Mofa(外務省)	www.mofa.go.jp/mofaj/	登録した地域の安全情報がリアルタイムで手に入る。

--	--	--

**6. その他の特記事項**

--